



里山の土壌を知る プロジェクト 2024

ご自身に関わる里山で土壌と一緒に調べてみませんか？

《参加団体募集中》

このプロジェクトは、京都大学フィールド科学教育研究センターによる市民参加型の全国里山土壌調査です。調査の目的は①里山土壌の状況把握と②伐採管理の影響評価です。全国から調査にご協力いただける参加者を募集しています。

募集内容

[対象] 以下2点を満たす里山に関わるグループ

- 1) ご自身がかかわる里山で広葉樹二次林の①伐採区と②対照区の調査地2区画を設定できる



- 2) 現地調査にボランティアで参加できる

[募集数] 全国から100サイト



[調査期間] 2024年7月1日～9月30日 **(募集期間 2024年6月28日～9月16日)**

[内容] **現地調査**：表層の土壌採取と植生調査など



詳細は「里山の土壌を知るプロジェクト」ウェブサイトをご覧ください。
<https://sites.google.com/kyoto-u.ac.jp/sato-soil> (下記のQRコード)
参加を申し込む場合は、ウェブサイトの「参加する>調査参加の流れ」から「申し込み」ボタンを押してください。

お問い合わせ先

「里山の土壌を知る」プロジェクト事務局
京都大学 フィールド科学教育研究センター
〒606-8502 京都市左京区北白川追分町

E-mail: fserc-collabo-jimu@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp



目的

① 広域で里山土壌の現状評価

土壌は森林の遷移などとも関連する基本的な生態系の要素です。これまで里山では、生物調査が広域で頻繁に行われてきましたが土壌は広域で調べられることはあまりありませんでした。この研究プロジェクトでは、広域の土壌調査を行って里山を支える基盤である土壌の一般的理解に貢献できればと考えています。

② 広葉樹二次林の伐採影響評価

里山の管理影響の理解もまた重要です。一般的に広葉樹二次林(薪炭林など)では10~30年に一度は伐採されてきました。この研究プロジェクトではもう一つの目的として広葉樹二次林の伐採管理影響も評価します。具体的には、管理の有無以外同じである広葉樹二次林において土壌を調査して比較するものです。

土壌の何を調べるの？

土壌環境、養分、微生物です。土壌環境は有機物量、pHなどの基本的な項目を測定します。養分は一般的に植物が利用しやすいとされる形態の窒素やリンの濃度を測定します。微生物については、環境DNAの分析(菌類の遺伝子解析など)をする予定です。



現地調査の参加の流れ

- 1) 申込フォームの入力
(表面のURLまたはQRコードより)
 - ・調査地などの要件の確認
 - ・団体名/メールアドレス/調査場所/調査キットの送付先など
- 2) キットの受け取り(申込後2週間前後)
- 3) 現地調査*
- 4) 発送(土壌サンプルなど)
- 5) 調査票の入力(Google Forms)
 - ・サイト情報/過去履歴の確認・入力
 - ・調査写真や記録などアップロード

お送りいただいた土壌などは京大フィールド研で分析/解析します。その後、オンライン報告会などで調査結果を説明予定です(2025年)。また、調査にご協力いただいた方々や研究者の交流会(オンライン)を計画しています。

*「現地調査」とは？

- 1) 土壌採取(地表5cm)
- 2) 落葉採取(広葉樹)
- 3) 樹木調査(種の確認*と幹サイズの計測)
- 4) 樹冠開空度調査(樹冠撮影)
- 5) 下層植生調査(写真撮影)

土壌をより理解するための調査

ご協力いただいた団体様へのお礼

- ・ トートバック × 1
- ・ 缶バッジ × 6



調査キットと一緒に送付します



COI-NEXT

*この調査は京大フィールド研の里山里海研究の一環として行っているものです。以下のプロジェクトからご支援いただいております。
①公益財団法人イオン環境財団と京大フィールド研の『新しい里山・里海 共創プロジェクト』
②JST 共創の場形成支援プログラム JPMJPF2114 「ゼロカーボンバイオ産業創出による資源循環共創拠点プロジェクト」